



ボードゲームで大人たち交流



社交場で地域盛り上げ

津市の大門大通りから一本入った細い路地の先にあるのは、吹き抜けの空間に、階段が迷路のように入り組んだ雑居ビル。四階に上がると、うっすらと明かりのともる一角がある。窓越しに見えるのは、古くて新しいボードゲームに興じる大人たちの姿だ。

(大島宏一郎)

「ボードゲームBar!」という名のコミュニティスペースは、津市NPOサポートセンターの理事長を務める川北輝さん(35)が二〇一三年十月に設立した。

市から地域のイベント企画を依頼されたが、事前に公募した案は、花火大会や物産展など単発の内容ばかり。「地域を盛り上げるためには、継続的に人と人とのつながりができる場が必要だ」と考えて、ボードゲームを囲む大人の社交場を考えた。

最初は参加者不足に悩んだが、口コミやフェイスブックで情報が広がり、今は毎回二

ボードゲームに興じる参加者たち
津市大門のピッチャーズビル4階で

津・大門の「Bar!」じわり人気

十人程度が集う。年齢は二十代前半〜三十代後半が中心で、職業も会社員や公務員、学生とさまざま。参加者の持ち込みで、ゲームの種類も約百五十にまで増えた。

八種類の害虫が描かれたカードを使う「ごきぶりポーカー」は、相手の出すカードを予想するゲーム。外すと自分の手元にカードが集まり、同じ種類のカードが四枚になると負けが確定する。岩や砂などのパーツを使って、美しい日本庭園を造る「枯山水」や、サイコロとカードを使って大魔術師を目指す「十二季節の魔法使い」など多彩なゲームがそろつ。

参加者の益川基司さん(40)は、「初心者、経験者を問わず、誰でも勝つ可能性があるのがボードゲームの魅力」と話す。開催は毎週木曜日の午後六時〜十時。津市大門のピッチャーズビル四階で活動。参加費は五百円(ワンドリンク付き)。予約不要で初心者、経験者問わず。@ピッチャーズビル四階 059(271)7782

2015年11月19日(木)

中日新聞